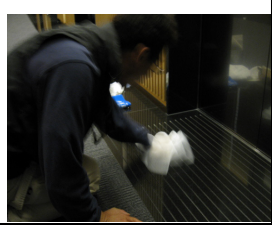


萌黄 (もえぎ) 通信

「もえぎ」、とは私の一人娘の名前です。誕生年と創業が同じなんです。



みなさん、こんにちは。12月に入り一段と寒くなってきましたね。季節が寒い上に、景気の方もかなり寒くなってきました。先日、取引先の大手不動産屋さんが民事再生手続きを行い、当社の売掛金の回収が難しくなってきました。

来年は、さらに厳しい時代になる予感がします。今のうちから最悪を考えた対策が必要になってきますね。

ここ数カ月は、創業当初に戻って、質素な生活を強いられる堀内貢次です。

5年前にお取引した方から再依頼が！

11月の下旬から12月にかけて、4～5年前にお取引した方から、再クリーニング及びコートの依頼が5件位入ってきました。当社のような石専門のメンテナンスの場合、なか

なか定期になりづらく、スポットの仕事がほとんどです。ただ、施工完了時に、コートの効き目が3～5年間なので、再施工お勧めをしていたのが功を奏したのか、汚れの再付着が強くなったのかはわかりません



が、過去の現場の定期メンテの時期に来ているのかもしれませんがね。来年以降は、3年から5年前にお取引したお客様回りをしてみる予定です。担当者が代わっていなければ確実にお会いできるのが強みですね。

「モカクリームの吸い上げシミ対策」

右上の写真は今年の集中豪雨によって、1階ロビーが冠水してしまい、裏面にまで水が回り、エフロが発生している状態です。表面上に出た白い粉は、エフロで、タオル等で拭き取っても、裏面が濡れていれば、しばらくして再発してしまいます。

(シミの原因)

石の最下段部分は、裏面がモルタル固定されているので、侵入した雨水と反応して、表面にモルタルのアルカリ水を引っ張って薄い茶色のシミが出来てしまいました。

(対策)

最下段部分の石1枚分に漂白系のシミ抜き剤を塗布して、シミ抜きを行う。シミが、除去出来れば、石の乾燥を早める

ためにヒートガンまたは、トーチで石の表面を乾燥させ、石の表面が濡れ色に戻らないようであれば、浸透性の吸収防止剤を塗布し再発防止をする。



乾燥させても、濡れ色がすぐに戻るところは、裏面が乾燥するまでしばらくの間放置するか、または、強制的に表面を乾燥させて、無理やり浸透性のコートを塗布して、さらに、コート剤

を強制的に乾燥させる方法をとるしかありません。

最近では、モカクリームのような吸水性の高い石材を使用する場合、今回のような濡れ色現象が出やすいので、石貼り前に浸透性のコート処理（製品塗布）するのが主流になりつつあります。

ロウのシミ除去

今回、墓石の洗浄の依頼が来たのですが、蝋燭が溶け出したものがこぼれたようで、石目に入り込んでしまい、白御影石がかなり黒ずんでしまっています。同じ現象は、ベンチとして使われている笠石がスケートボードによって黒くなっているのと似てい



ます。白御影石のバーナー仕上げや艶消し仕上げに限り、薬品が使用できるので、ある程度は見栄え良くシミ抜きが可能です。

(編集後記) 今月はクリスマスがありますね。娘は15歳になりますが、この時期になるとサンタさんが存在するふり？をするのか、いろいろ貰うプレゼントを思案中です。さすがは女性、恐るべし！

萌黄通信 毎月1回発行

発行編集責任者 (有) ケイ・アンド・エス 堀内貢次

(東京出張所) 東京都港区浜松町1-1-10

(電話) 03-3431-0387 (Fax) 03-3431-7198

<http://www.e-kands.jp>

(メール) kandsstg@jt4.so-net.ne.jp